

ありは、いつもいそがしそうにすをほったり、えさをはこんだりと、いかにもはたらきもののように見えます。でも、これらのありは、地めんの上面に出てきたあります。すの中でも一生けんめいはたらいっているのでしょうか。

すの中をのぞいてみると、なにもしないでじっとしているもの、ただぶらぶらすの中を歩いているものなど、なまけもののありがたくさんいます。

では、なぜ、なまけもののありがすの中にいるのでしょうか。

ありには、てきがたくさんいます。もしも、はたらきしているありがほかのどうぶつにたくさん食べられて数がへったりすると、えさがあつめられなくなり、すにすむありが、ぜんぶしんでしまうかもしれせん。

ありは、このようなことにならないように、いつもあまるくらいたくさんのおりがすにしているようにしています。外で、一生けんめいはたらいっているありをわざととってしまうと、なまけていたありたちがはたらきはじめます。ぎやくにはたらいていたありもはたらかなくなるのです。

ありは、いつもいそがしそうに をほったり、えさをはこんだりと、いかにもはたらきもののように見えます。でも、これらのありは、地めんの に出てきたあります。すの中でも一生けんめいはたらいているのでしょうか。

すの中をのぞいてみると、なにもしないでじっとしているもの、ただぶらぶらすの中を歩いているものなど、 のありがたくさんいます。

では、なぜ、なまけものありがすの中にいるのでしょうか。

ありには、 がたくさんいます。もしも、はたらきしているありがほかのどうぶつにたくさん食べられて がへったりすると、えさがあつめられなくなり、すにすむありが、ぜんぶしんでしまうかもしれせん。

ありは、このようなことにならないように、いつもあまるくらいたくさん

がすにしているようにしています。 で、一生けんめいはたらいている

ありをわざととってしまつと、なまけていたありたちがはたらきはじめます。ぎやくにはたらいているありがふえすぎると、今まではたらいていたありもはたらかなくなるのです。

ねこのすず（イソップ童話^{どうわ}）

「あのね^{はん}をどうにかしないと、おいしい^{はん}ご飯にありつけないぞ。」

大きな屋^やしきのねずみたちが集^{あつ}まって、相談^{そうだん}を始めました。屋^やしきに^{はじ}いるねこは、ねずみが大き^{あしおと}らい。あなからねずみが出てくるのを、どこからかかぎつけ、おそいかかってくるのです。足音も立てず、そつと近づいてくるので、ねずみたちは安心^{あんしん}して^{はん}ご飯をさがしに行けません。

「何か、いいちえはないものかなあ。^{なに}」

みんなで考^{かんが}えても、なかなかいい考えがうかびません。

「そうじゃ、いい手^てがあるぞ。」

おじいさんねずみが言^いいました。

「ねこの首にすずをつけるんじや。ねこが動けばすずが鳴るから、いるところがすぐわかるぞ。」

「それはいい！」

みんなは大きなせいです。

「でも、だれがねこの首にすずをつけに行くの。」

こわくてだれもできません。ねずみの相談は、今日も何も決まらずに終わってしまいました。

ねこのすず（イソップ童話）
どうわ

「あの

--	--

をどうにかしないと、おいしいご飯^{はん}にありつけないぞ。」

大きな屋^やしきのねずみたちが集^{あつ}まって、相談^{そうだん}を始めました。屋^やしきにいるねこは、ねずみが大

--	--	--

。あなから

--	--	--

が出てくるのを、どこからかかぎつけ、お

そいかかってくるのです。足音^{あしおと}も立てず、そっと近づいてくるので、ねずみたちは安心^{あんしん}

してご飯^{はん}をさがしに行けません。

「何か、いいちえはないものかなあ。
^{なに}

--	--	--

で考^{かん}えても、なかなかいい考^{かん}えがうかびません。

「そうじゃ、いい手^てがあるぞ。」

おじいさんねずみが言^いいました。

「ねこの首くびに

--	--

 をつけるんじや。ねこが動うごけばすずが鳴なるから、いるところがすぐわかるぞ。」

「それはいい！」

みんなは大きなせいです。

「でも、

--	--

 がねこの首くびにすずをつけに行くいの。」

こわくてだれもできません。ねずみの相談そうだんは、今日きょうも何も決なまらずに終おわわってしまいました。

名前